

日本語学校と私

日本語や日本文化を教える、友達を作る日本語学校の物語

グループ B-6 張華偉 (チョウ カイ)

1. 紹介文：授業ではコミュニティについて、各グループの一人一人自分がコミュニティのイメージ、自分の言葉で書いて、黒板に貼りました。皆様の考え様々ですけれども、先生がみんなの考えをまとめたら、コミュニティが共に目標、興味のためにコミュニケーションする集まりということが分かって来ました。

では、私にとっては大切なコミュニティはどこでしょうか。考えても、私にとって大切なコミュニティはやはり日本語学校と思います。私は来日したら日本語学校に通っていました。KCP という日本語学校でした。そこでは日本語を教えている先生と一緒に日本語を勉強する留学生がいます。皆日本へ来たばかりなので、様々なところがわからない、ドキドキしながら新しい生活が始まります。先生から日本語ではなくて日本の事情、日本の習慣まで教えていただきました。先生といっても友達のように感じて学習と日常生活で助かります。例えば、日本での部屋探し、バイト探し、買い物など生活のこと親切に教えていただきました。そして、学習のところで、EJU の情報、大学の試験受ける方法と大学の情報、調べて教えていただきました。特に EJU 請けるのは「日本語だけではなくて、入りたい大学の学部によって、数学、物理、化学、生物の試験もあります。日本語学校でそういう科目勉強したおかげで、今秋田大学に入っています。日本語学校では毎三ヶ月一回活動を行います、例えば、浅草寺、富士山、富士急ハイランド、新宿御苑のお花見、昭和記念公園、東京ディズニーランド、鴨川シーワールドなど旅行しました。しかし、ただの旅行ではなくて、旅行を通じて日本の文化を知らせます。これは私初めて自分の目で見る日本です。聞いたり、本を読んだり、映画を見たりではなく、本物の私の目で見る本物の日本、街がきれいで、人がやさしくて

日本語学校の人私にとっては重要と思います。先生が両親のような親切で、友達のような何でも相談できる、留学生たちは皆大学に入るために必死に日本語、数学、物理、英語を勉強して受験する、皆同じ目標を持っている、お互いバイトを紹介したり、お互い国語の挨拶を教えたりして楽しかったです。それに、何により、お互い励んで大学の目標に頑張ります。授業で問題を相談したり、一緒に遊んだり、風を引くとき皆から電話をかけてきて感動しました。

私はなぜ日本語学校が私にとっては大切なのかを考えました。まず日本語学校を通じて日本を見ました日本の文化、日本人の気持ちなど、そして日本語学校の人たち先生と勉強と生活の多様。先生から学習も生活も助かりました。最後、留学生たちの交流、国外で友達もできて目標に向かって一緒に頑張ったので友情を大事にしたいと思います。

日本語学校で日本の文化をわかってきて、友達もできて先生と留学生友達になって、大学も入っています。

ですから、日本語学校は私にとって大切なコミュニティと思います。

今、大学に入って自分も大学のコミュニティも大切にしたいと思います。皆よろしく願います。

2. インタビュー相手

インタビューの相手は学校の先生と日本語学校の友達にしたいと思います。なぜなら、先生からやさしくて日本語や受験科目を教えていただいて、生活の困ることも助けていただきました、友達お互い励んで大学の目標に頑張ってきたからだ。

先生は皆仲良くするために、一緒に遊んだり、冗談したりしました。そして、先生はやさしく日本語を教えます。先生の役割ではないかという疑問が聞かれるかもしれませんが、それはそうですけど、しかし、一から日本語を教えて続けて二年間力かって育て、ずっとやさしくて、学生のために考えます。これは普通ではないでしょう。思い出が出てきますけど、受験の前、国立大学しか受験しない私に、先生から繰り返しの面接の練習していただきました。面接の準備や聞かれるかもしれない問題など教えていただいて、繰り返し練習やりました。私は五つの大学を受けて、先生から五回の練習を繰り返ししました。こころからありがたいです。先生からいっぱいお世話になっていたのでインタビューの相手にしたいと思います。

そして、友達と一緒に頑張ってきました。風を引くとき、友達から連絡が来て、”大丈夫ですか、薬をちゃんと飲んでね”など国外で一人暮らしますけど、独りではないのような暖かさを感じました。友たち授業の内容も説明してもらったり、授業用のファイルも送ってもらったりしました。受験の情報も皆一緒に参考します、自分が調べる資料を共用します。チームの強さを感じました。友たちと一緒に頑張ってきたので、友たちもインタビューの相手にしたいと思います。

日本語学校でお世話になっていた先生や二年間一緒に頑張ってきた友達もたくさんありますが、インタビューの特徴や時間の制限から考えると、先生の一人と友だちの一人したいと思います。先生は連絡しましたが、忙しくて、電話でインタビューが難しいし、インタビュー相手の感情をよく聞き取れたいと考えた上で、インタビュー相手を友達にしました。

3. インタビューの結果

張：多文化交流のレポートでインタビュー頂いてありがとうございます。今日よろしくお願ひします。今 KCP 日本語学校から卒業した半年ですね、何か感想がありますか？

周：え、2010.4月に KCP の図書館で試験を受けたことがまるで昨日のここのように新鮮に頭のなかに残っている。

張：そのとき同じクラスになりましたね、同じレベル1になりました。私たち国で日本語を勉強しましたが、、、「笑」

周：そうですね。でも、試験のときもう忘れちゃったわ、

張：KCPに入るときどんな感じでした。確か、そのときのあなたは話すのはあまり好きではないですよ。

周：そうですね。そのとき、自分日本での生活をわくわくしていた。でも、日本に来たばかりなので、友だちあまりできていない。

張：今変わりましたよね

周：うん、KCPで一番大きく得たのは外国人の友だちを作って、自分と全然違う人と自然に交流できるようになったことだと思う。私の性格は実はとても内向的で自分の母語で話

すのも恥ずかしかったり、苦手だ。しかし、その二年間頑張って、だんだん日本語や英語で話せるようになった。自分の成長がうれしい。そしてずっと友だちが何より大切だと思った私に KCP で正涯の親友ができた。

張:そうですね。変化大きいですね。KCP で自分がした一番自慢できることがありますか。

周:「考え」えっと、自慢できるものと言えば、私一番自慢できるのは、スピーチコンテストに出ることだ。スピーチコンテストそのものの興味がなかったが、自分を鍛えるためにでした。

張:ああ、まだ覚えているよ。そのときあなたのスピーチ、すごかったですよ。スピーチのとき人が多くて怖いですか。

周:いいえ、とんでもないです。そのとき宮本先生が背中を押してくださったり、二階堂先生や久門先生も励ましてくださったり、皆の応援はその時私の家族だと思った。M61 の皆きてくれたから、怖くなかった。

張:そのとき私たちあなたのために応援することも、あなたスピーチしてくてることも私たちの貴重な記憶ですね。

周:そうですね。M61 のみんなに“ありがとう”を言いたい。楽しかったことも、苦しかったことも今すべて美しい思い出として心に刻みつけられている。一緒にこの美しいおもいでを一緒に作ったみんなにありがとう。

張:きっと、みんなそう思います。KCP での記憶を忘れないで、そして今の大学生活も頑張ってください。

周:ありがとう

張:いいえ、こちらこそ。今日のインタビューも助かりました。ありがとうございました。インタビュー相手のコミュニティについていろいろ聞きましたけど、みんな初めて日本へ留学したので、異国で生活も勉強も大変ですけど、先生やできた友達からの応援は心をなおします。外国人同士がお互い助かり、先生たちは学生のために励ましてくださいました。

4. 日本語学校と私

私はなぜ日本語学校が私にとっては大切なのかを考えました。まず日本語学校を通じて日本を見ました日本の文化、日本人の気持ちなど、そして日本語学校の人たち先生と勉強と生活の多様。先生から学習も生活も助かりました。最後、留学生たちの交流、国外で友達もできて目標に向かって一緒に頑張ったので友情を大事にしたいと思います。

日本語学校で日本の文化をわかってきて、友達もできて先生と留学生友達になって、大学も入っています。

これからも日本学校のコミュニティこういうふうに生きたいです。日本語学校の先生にメールや facebook を利用して、先生と連絡していく、学校の後輩にもアドバイスを伝える。そして、日本学校の友達は今日本の各地で大学や専門学校に通っているから、友達に誘って秋田へ遊びにくる。

そして、日本学校で学んだ知識を応用して、日本の文化を国内の友達に伝える、日本人の気持ちをよく理解して、たくさんの友達を作る。日本語学校のコミュニティを忘れないで、さらに大学のコミュニティを作る前に進む。

5. クラスについての感想

非常にいいと思います。グループを分け、みんなで交流や話すことを増やしました。このクラスも、皆の大切なコミュニティになったのではないかと思います。交流することで、皆の気持ちを各国の文化など、いろいろ学べます。

改善希望点がないですけど、できれば、クラスの課外活動が増やしてほしいと思います。皆で活動による共同作業や交流によって、さらにつながると思います。